

令和8年度 「親の育ち」 家庭教育支援者養成講座 【単位A】 子供の特性 I
(2026年7月16日 13:00~14:35)

講座 2

子供の特性と保護者支援：乳・幼児期編



岡崎短期大学 幼児教育学科 准教授
丸山 笑里佳 (臨床心理士・公認心理士)

本日の目的・内容

家庭教育支援者がよく出会う相談場面を通して、
乳幼児期の発達を理解し、
保護者への支援のヒントを考えます

1. よくある相談場面から考える乳幼児期の発達
2. 保護者支援のポイント

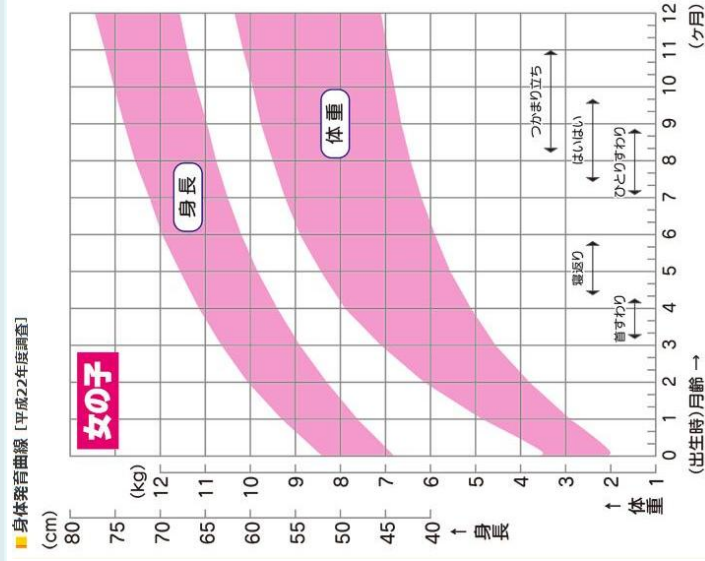
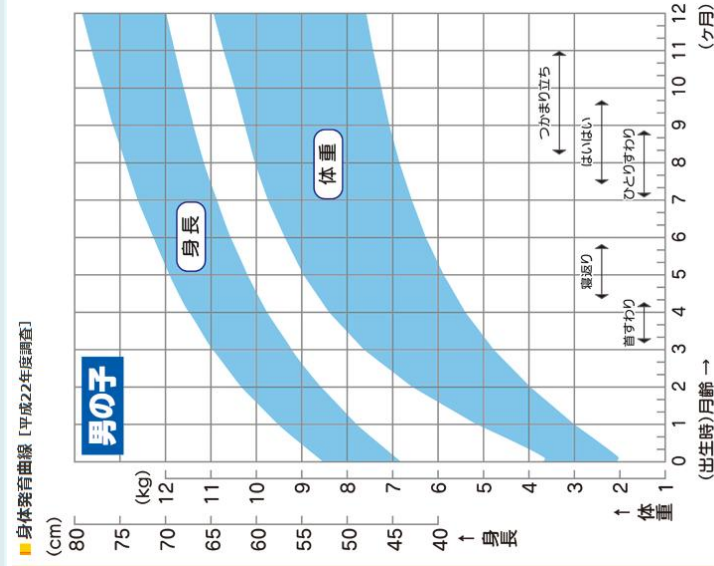
運動面・体の発達の悩み

まだ歩かない

体が小さい

うちの子だけ…

発達には連続的で、個人差があります



厚生労働省 乳幼児身体発育調査：調査の結果 平成22年度調査をもとに作成されたもの

【運動面・体の発達】支援のポイント

- 他のお子さんとは比べやすいため、不安や悩みを抱える養育者は少なくありません。
- 養育者の心配や不安に寄り添いながら、個人差が大きいことを伝えましょう。
- 健診（1歳6ヶ月児健診、3歳児健診）で必ず確認されるため、一緒に見通しをもつ目安になります。

言葉の悩み

まだ話さない

言葉が遅いか心配

言葉が少ない

言葉の発達を考える3つの視点

「言えることば」だけでなく、
「コミュニケーション」の部分を大切にしましょう

- ①【言えることば】 音声言語
- ②【わかることば】 言語・内言語・概念
- ③【コミュニケーション】 自分の気持ちや考えを伝えたいという意欲

【言葉の発達】 支援のポイント

- 他のお子さんとは比べやすいため、不安や悩みを抱える養育者は少なくありません。
- 個人差が大きいことを伝えながら、「生活や遊びの中で出来ること」を一緒に考えましょう。
- 乳児への声かけに戸惑ったり、どのように関わればよいかわからない養育者もいます。支援者が自然な形で関わり方のお手本を示すことも、大切な支援の一つです。

感情面の悩み

イヤイヤばかり

かんしゃくがひどい

わがままに見える

9

幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑

自律性とは、自分自身のコントロール

自分の意思で排泄や生活、感情をコントロールできること

- トイレトレーニングをはじめとした「しつけ」と関わりが深い
ー 全てを養育者にゆだねていた時期を過ぎ、子どもたちは「がまんをすること」、適切な時に、適切な場所で解放（排泄）することを学んでいく
- 最も難しいのは「怒り」のコントロール
- 他者との関わりの中で、「自己コントロールがうまくできたときの喜び」をたくさん経験してほしい時期
- コントロールが上手くいかない時（失敗した時）、子ども達は「恥ずかしい」という気持ちを経験する

10

幼児期後期 自主性 対 罪の意識

自主性とは、自分で考えて自分で行動すること
(主体性・意欲・やる気)

- 第一次反抗期（イヤイヤ期）…自我の芽生え、自己主張のはじまり
- 自分ですることは楽しい・嬉しいという感覚が大切
大人は子どものやろうとする気持ちを大切に育てる必要がある
←→ 子どものやりたいことが、
しつは、社会や対人関係のルールと相反する場合もある
- 自分がした行為に対して、叱責や罰を受ける機会も増える。
自分がした行為に対しての「罪悪感」

11

感情表現の制御・感情調整の発達

【初期のころ】

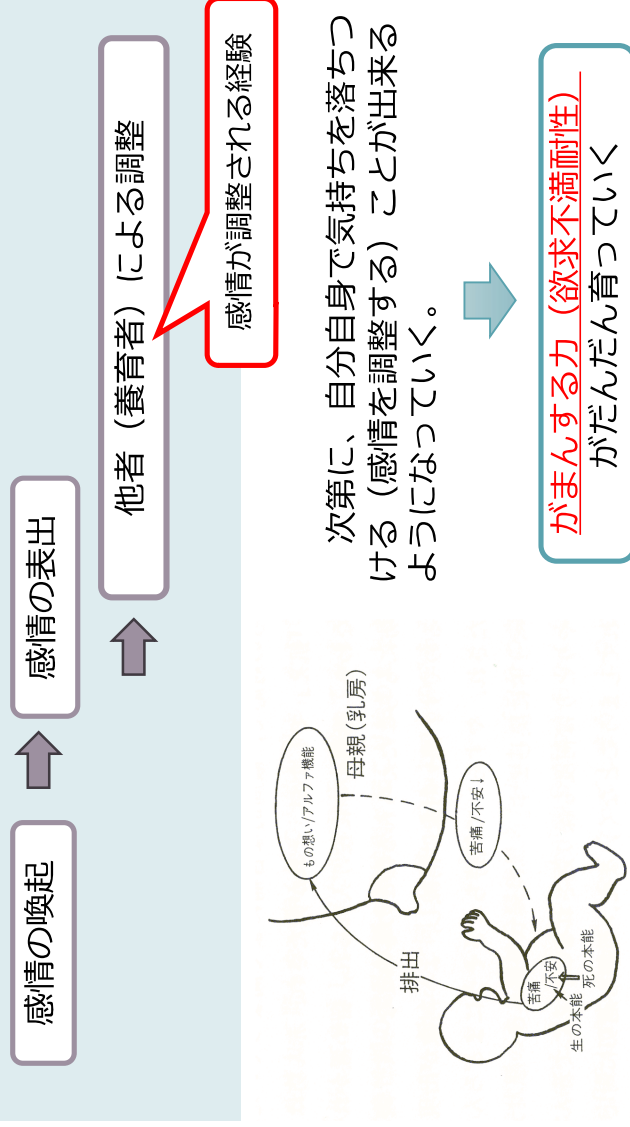


図9 赤ん坊と母親についてのビオンのモデル

12

【感情の発達】支援のポイント

- 感情をコントロールすることや、がまんをすることは、子どもたちにとって「練習中」です。
練習に付き合う養育者がつらい気持ちになるのも、自然なことです。
- お子さんの心の発達の山場に取り組んでいることを理解した上で、養育者の大変さや不安にも寄り添いましょう。

13

がまんしやすくなるコツ
～ がまんする力を育てていくために ～

- 「いつまで待たせたいことができるのか」を、具体的に、穏やかに伝えましょう。
- 一人では待てない時も、信頼している人と一緒に待つことができるかもしれません。
- 待てた時には、「おまたせ」や「ありがとう」のひとことを忘れずに。がまんができたときに誉めましょう。
- 大人が、子どもとの約束を守りましょう。

14

子どもの特徴についての悩み

ぜんぜん寝てくれない

すぐ泣く・よく泣く

泣いたら激しくて手に負えない

15

子どもが生まれつき持っている特徴を「気質」と言います

- 反応が穏やかで機嫌もよく、睡眠や食事といった生理的なリズムも安定していて、環境の変化にもすぐ慣れる
- 生理的なリズムが安定しにくく、泣きの反応も強い。環境の変化に慣れにくい
- 環境変化には慣れにくい、反応は穏やか

16

【子どもの特徴についての"悩み"】 支援のポイント

- 「気質」は、子どもの個性の源になっているものですが、環境：周りの関わりによって、だんだん変化しています。
- 子どもの特徴を理解すると、養育者の気持ちが少し楽になることもあります。
- 子育て支援では、子どもの気質と養育者との関わり方の特徴の組み合わせによって、子育てのしやすさや難しさが変わることがあります。

17

環境の変化にまつわる"悩み"

下の子が生まれてから…

引っ越ししてから…

夜泣きがひどい

前は一人で食べていたのに

「だっこだっこ」が多くて大変

18

環境の変化は、大人が思っている以上に、子どもにとってストレスになることがあります

- 自分の下にきょうだいが生まれることや、引っ越しをすること、子どもにとっては大きな「環境の変化」です。
- 人には、自分の心を守ろうとする心の働きがあります。甘える行動は、安心・安全な気持ちを取り戻そうとする子どもなりの表現の一つです。

【環境の変化にまつわる'悩み'】 支援のポイント

- 安心・安全な気持ちを取り戻すことが出来ると、自然に落ち着いていくことがあります。
- 子どもが安心・安全な気持ちを体感できるよう、ある程度甘えを受け止めることも大切です。
- 子どもと向き合う養育者が、少しでもゆとりを持てるような支援を心がけましょう。

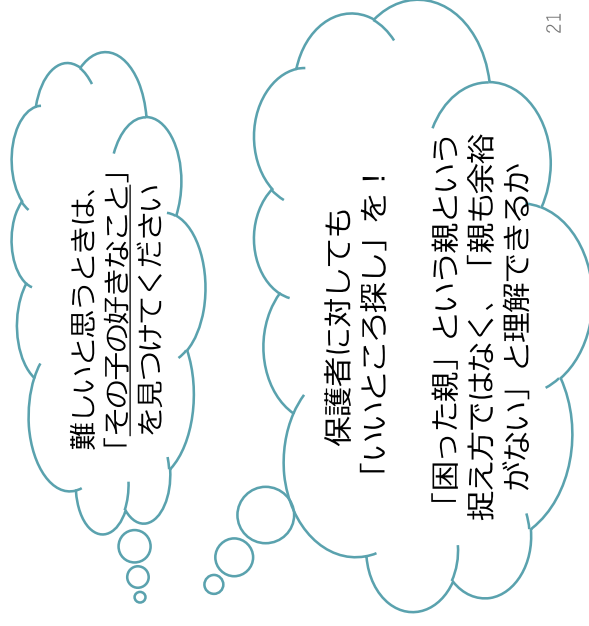
保護者支援のポイント①

いいところ探し をしよう

1. 子育ての負担の軽減をする
2. 子どものいいところ探しをする
3. 子育ての方法や技術を伝える
4. 保護者の悩みを聞く
5. 専門機関の活用の方を教える
6. 他の保護者との関係作り

保育と虐待対応事例研究会（編）（2004）『子ども虐待と保育園』

21



保護者支援のポイント②

聴き方 ・ 話し方

- 肯定的に
禁止の言葉を使わず、相手を否定せずに関わりましょう
- 「一緒に考える」姿勢を大切にしてください。
「子育ての主役」は「子ども」と「保護者」です。
「悩みをなくすのが仕事」ではなく、
「悩みに取り組むことをお手伝いする」気持ちで。
アドバイスではなく情報提供を。

22

保護者支援のポイント③

保護者を支えるための視点

1. 保護者だけでなく、親子を取り巻く環境にも目をむけましょう。
2. 保護者自身も、不安や困りごとを抱えていることがあります。
3. 保護者を責めるのではなく、「なぜそうなったのか」という背景を理解しようとする姿勢が大切です。
4. 必要に応じて、1人で抱え込まず専門機関と連携しましょう。

23

まとめ

- 子どもの発達を知ること、子どもの見方や接し方が変わります。
- 保護者の思いや価値観に耳を傾け、大切にしながら、子どもの発達や関わり方を伝えましょう。
- 子どもと保護者が少しでも前向きな気持ちになれるよう、一緒に考えながら支援していきけるとよいですね。

24

参考・引用文献

- 厚生労働省 (2011) 「平成22年 乳幼児身体発育調査」
- 後藤 秀爾 (2012) 『心の物語と現代の課題』 ナカニシヤ出版
- 相良 順子ほか(2018) 『保育の心理学 [第3版] 』 ナカニシヤ出版
- 鑪 幹八郎 (2002) 『アイデンティティとライフサイクル論』 ナカニシヤ出版
- 中川 信子 (2013) 『生まれたときからことばを育てる暮らし方』 保健同人社
- 名古屋市障害児保育30年誌 『自閉症児への対応基本3原則』
- 保育と虐待対応事例研究会 (編) (2004) 『子ども虐待と保育園』 ひとなる書房
- 松木 邦裕 (1996) 『対象関係論を学ぶ』 岩崎学術出版社